

鎌倉市にふさわしい博物館基本計画（素案）に対するご意見と市の考え方

生涯学習課

NO	カテゴリー	意見番号	市民の皆様からのご意見	市の考え方
1	展示、調査・研究の充実	1	鎌倉は中世都市としての歴史的価値に加え、海に開かれた地理的特性を持つ街です。その特性を活かし、海と鎌倉の関わり（交易・漁業・信仰・防衛など）を学べる海洋分野の展示や研究機能を取り入れていただけたらと考えます。鎌倉の歴史をより立体的に理解できる視点になるのではないのでしょうか。	ご意見いただきありがとうございます。 人文系の総合博物館を目指す計画のため海や地理的な特性はも重要な要素であると認識しています。 頂いたご意見を参考にし、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。
2	展示、資料調査・研究の充実	1	子どもたちや若い世代が主体的に学べる科学的視点も重要だと感じています。自然環境や地形、地質、考古学的調査手法などを体験的に学べる機能があると、歴史と科学を横断して学べる魅力的な施設になると思います。将来的には、科学展示やプラネタリウムのような設備も検討の余地があるのではないのでしょうか。	ご意見いただきありがとうございます。 歴史と科学を横断的に学ぶ視点も重要であると認識しています。今後は、フィールドミュージアムやデジタルミュージアムなどの取組を通じて、各自然科学の有識者との連携も視野にいれながら、地域の特性に応じた魅力ある博物館の構築に努めてまいります。
3	展示、資料調査・研究の充実	1	日頃発掘調査に携わる立場から申し上げますと、鎌倉市内で出土した遺物や調査成果を体系的に展示・紹介できる場の充実を強く望みます。発掘成果は鎌倉の歴史を物語る貴重な資料であり、その保存・研究・公開が一体となった機能の強化は、本計画の理念とも合致するものと考えます。	ご意見いただきありがとうございます。 市内で出土した遺物を展示する博物館として鎌倉歴史文化交流館の展示をさらに充実させるとともに、将来的には埋蔵文化財センター等の設置も検討しながら、事業を推進してまいります。
4	計画の是非について	1	「市域全体を博物館と捉える」という理念を実現する中核拠点として、歴史・海・自然・科学を横断的に学べる総合的な博物館となることを期待いたします。	ご意見いただきありがとうございます。 将来的には人文系及び自然科学を総合した博物館が望ましいと考えますが、本計画では、まずは実現可能なところから、既存の博物館を充実させることで、人文系の博物館の実現を目指すものとしています。頂いたご意見を参考にし、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。
5	鎌倉ミュージアムについて	2	①2020年に公表された「博物館基本構想（素案）」に大変興味を持ち、その考え方に賛同していた。今回意見を募集している「博物館基本計画（素案）」を読んでみて、賛同する部分と再考の必要な部分があると感じ、意見を述べることにした。 ②再考の必要部分は、全国各地のエコミュージアムが課題を抱えていることを理由、定義も曖昧なフィールドミュージアムFMに変更しようとしていることである。 ③ただし、市全体を一つの博物館と捉える、歴史遺産所有者だけでなく地域住民や市民・学校などの教育機関が一体となって取り組むことには、大いに賛同する。 ④また、今回加わったデジタルミュージアムについても、必要不可欠なことで、大いに進めて欲しい。 ⑤上記の③④を進め、その成果を活かせば、②の課題を乗り越えられるのではと考えている。 サテライト施設は (1) 市内各地の「構想」において候補として挙げた施設 (2) エリアの情報はデジタルミュージアムから該当分の展示 (3) FWに関連する住民・市民・学生などの打合せスペース ⑥現在フィールドミュージアムで想定している内容、デジタルミュージアムの推進はいずれも大いに進めて欲しい。それらを活かして、エコミュージアムに近づく方法を検討し、実行して欲しい。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画は、エコミュージアムの理念を、鎌倉の特性にあわせて発展的に取り入れ、具体化したものです。将来的には歴史遺産の活用が望ましいと考えますが、まずはこれらの基礎的な調査・研究（「フィールドミュージアム」）を地域とともに実施し、その成果をデジタル上でつなぎ共有・発信する（「デジタルミュージアム」）ことを目指してまいります。今後も頂いたご意見を参考にしながら、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。
6	組織、管理運営体制について	3	観光からの財源 文化財の調査や保全には多くの財源が必要です。その恒久的な財源案として観光税の導入を提案します。現在、市議会で宿泊税の導入について検討がなされていると聞いております。宿泊税は、現状で94%の訪問客が日帰りであることを鑑みると、公平性の観点、また、財源としても充分ではないと思います。観光税をどのように徴収していくかは議論が必要ですが、DX化の世の中、鎌倉に訪問客が流入する交通機関（JR、小田急、江ノ電、駐車場など）の協力を得られれば実現可能かと思えます。税の目的として文化財の調査や保全、博物館の運営費用などの項目も記載できればよいのではないのでしょうか。フランスやタイなどの先進観光立国は、観光収入からの文化財保護の資金調達の仕事を持っていると聞いております。観光税を活用できれば、今後市に寄贈される文化財の保全、改修費用にも充てることが可能になります。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画の趣旨は、貴重な歴史遺産を未来に伝えるため、2つの博物館である鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館を核として、地域のネットワークを構築し、地域とともに歴史遺産を守り伝える博物館の構築を目指すものです。 観光施策などとも連携しながら、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。
7	鎌倉ミュージアムについて	3	エコミュージアム・フィールドミュージアム 市全体を一つの博物館と捉える発想は素晴らしいです。それぞれの社寺や点在するアートミュージアムなどの文化的価値を発信することが、観光基本計画にも謳われている「周遊・分散観光」につながります。 その追加のアイデアとして、鎌倉中央公園を屋外アートミュージアムとして展開することを提案します。他の地区での成功例として、香川県の直島、奈良県小山公園芸術の森がモデルとなります。アートに敏感な欧米の観光客が多く訪問して観光消費額が増加していると聞いております。小規模のアートミュージアムや季節的なアート展などをデータにして、デジタルマップを作成すれば、市民も訪問者もアートめぐりができます。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画の趣旨は、貴重な歴史遺産を未来に伝えるため、2つの博物館である鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館を核として、地域のネットワークを構築し、地域とともに歴史遺産を守り伝える博物館の構築を目指すものです。 文化施策などとも連携しながら、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。

8	展示、調査・研究の充実	3	アニメ・映画博物館の新設 鎌倉は松竹ゆかりの地。また、小津安二郎や川喜多長政ゆかりの地でもあります。そして多くの映画・アニメの舞台となった地でもあります。そこで、例えば、これから開発される深沢にアニメ・映画の博物館を作ったらどうでしょうか。アニメのスラムダンクの聖地である鎌倉高校前に多くのインバウンド観光客が訪れて、こちらは住宅街にあることにより課題になっていますが、深沢の商業地区であれば、人が集まっても課題にはならないのではないのでしょうか。コンテンツ産業は、高市政権の17の戦略分野のひとつです。建設費や運営資金の一部は、国の補助金を活用できるのではないのでしょうか。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画の趣旨は、貴重な歴史遺産を未来に伝えるため、2つの博物館である鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館を核として、地域のネットワークを構築し、地域とともに歴史遺産を守り伝える博物館の構築を目指すものです。 ご提案のアニメ、映画博物館の新設については、本計画とは別に検討すべきものと考えますが、ソフト面において川喜多映画記念館や鎌倉文学館などの市内の博物館・美術館と連携し、ご意見を参考に、事業を推進してまいります。
9	—	4	景観と安全を守る「選定と表示」のルール化 鎌倉型ガイド表示の標準（景観配慮型の案内ルール） 観光案内板などの案内表示板について、デザイン・素材・サイズの共通基準を作成し、情報の乱立を防ぎ、景観と調和させることを提案したい。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画の趣旨は、貴重な歴史遺産を未来に伝えるため、2つの博物館である鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館を核として、地域のネットワークを構築し、地域とともに歴史遺産を守り伝える博物館の構築を目指すものです。 良好な都市景観の形成のため、本市では「鎌倉市景観計画」、「鎌倉市屋外広告物条例」、「鎌倉市公共サインガイドライン」などが策定されています。 景観施策などとも連携しながら、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。
10	鎌倉ミュージアムについて	4	鎌倉ミュージアムを構成する歴史遺産（基本構想でのサテライト）について、選定基準の明確化を行い。価値だけでなく「安全」、「静穏」、「管理」を含めた実装性の評価軸を導入してはどうか。	ご意見いただきありがとうございます。 歴史遺産の基準は重要であると考えています。 頂いたご意見を参考にし、専門家の意見も取り入れながら、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。
11	鎌倉ミュージアムについて	4	観光ルートから「学びの回路」への昇華 観光ルートを単なる移動のための導線とするのではなく、鎌倉の独自性を学ぶための「回路」として、「見る観光」から「学ぶ回遊」にしてはどうか。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画では、歴史遺産の調査・記録を行う「フィールドミュージアム」と、その成果を共有・発信する「デジタルミュージアム」により、鎌倉の歴史や文化を学びながら巡る環境づくりを目指してまいります。 頂いたご意見を参考にし、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。
12	鎌倉ミュージアムについて	4	インバウンド対応の高度化 地図や混雑回避マップは、補助ツールであり、インバウンドへ対応も「人」が主である。作法や静けさ、文脈など外国人観光客へ対応できるよう鎌倉らしい、品格ある受入れを望む。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画は、鎌倉の歴史遺産の調査・研究およびその成果の発信を目的とするものであるため、いただいたご意見は、今後の観光施策を検討する際に参考とさせていただきます。
13	市民参画について	4	外国人居住者を「担い手」に 鎌倉には外国人観光客が多く、鎌倉ミュージアムにおいて対応が必要。歴史遺産を活用する上で、外国人居住者を「多文化ガイドパートナー」とし、単なる翻訳者ではなく、文化を翻訳し伝えるパートナーとしてはどうか。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画の趣旨は、貴重な歴史遺産を未来に伝えるため、2つの博物館である鎌倉国宝館と鎌倉歴史文化交流館を核として、地域のネットワークを構築し、地域とともに歴史遺産を守り伝える博物館の構築を目指すものです。 市民参画の形については、ワーキンググループ、フィールドワークグループなどの組織で検討しているところです。頂いたご意見も参考にし、鎌倉市にふさわしい博物館の実現のため、事業を推進してまいります。
14	組織、管理運営体制について	4	運営組織について、行政、コア施設、社寺・歴史遺産管理者、市民・専門家による運営協議会を設置してはどうか。	ご意見いただきありがとうございます。 本計画では、デジタルミュージアム、フィールドミュージアムそれぞれに、ワーキンググループの設置を検討しております。その中で、行政、社寺、歴史遺産管理者、市民、専門家を交えて、管理運営について検討していきます。
15	資料のデジタル化について	4	ARなどのデジタルコンテンツによる派手な演出の前に、歴史遺産に関わる細かな文字情報による管理台帳が必要である。	ご意見ありがとうございます。 デジタルミュージアムでは、デジタル画像やデジタルコンテンツによる公開・活用を目指しているところですが、フィールドミュージアムを実施する上での歴史遺産を調査するフィールドワークにて、歴史遺産それぞれの歴史遺産カルテを作成します。歴史遺産カルテで、歴史遺産に関する情報について適宜更新を図り、ご提案にある管理台帳の役割の構築も目指しています。

16 展示、資料調査・研究の充実

5

「鎌倉市にふさわしい博物館基本計画」の趣旨、理念に賛同する。
そのうえで、とくに「取組3 地域や子供たちと連携したフィールドワークの実施」中の「歴史遺産カルテ」中の考古資料に関する取扱いについて意見を提出する。
第2章の「鎌倉市の歴史遺産の特徴」中に記載のある通り、鎌倉市域は「中世都市遺跡を中心とする考古学的遺産の宝庫」である。とくに考古資料について 由比ガ浜、材木座海岸 は考古遺物が数あまた散在しており、市民、あるいは関係者（私自身を含めにより収集、保管されている事例が少なくない）と考える。
たとえば 当時の中国製磁器の破片が散在していることは、国内外の専門書やエッセイなどでも頻りに紹介されているところである。
これまで鎌倉にかかわる碩学各位、たとえば前回の総合調査（p.11）を主導された三上先生、赤星先生、貫先生らの収集したコレクションについては、その存在が認知されており、保存・管理に関する継続的な配慮がなされ、定期的に公開される機会もあるものと考えられる。
一方、個人ブログ、あるいはヤフーオークションなどを渉猟すると、認知されているコレクションはあくまでごく一部に過ぎないという懸念もある。認知されてこなかったコレクションについては、収集家が何らかの事情でそのコレクションを手放した場合（ヤフーオークションはまさにその範疇であるし、廃棄されることもありうる）、速やかに散逸し回収は困難であろう。「（仮）鎌倉ミュージアム」としての取り組みの一環で、これから考古遺物について所在を把握する機会が作れるのではないかと。コレクションの所在を人的ネットワーク（含む SNS を介して確認し、「歴史遺産カルテ」の中に組み込む仕組みがつかれないか。カルテに組み込まれたのちには博物館や将来の設置が見込まれる「埋蔵文化財センター」が、コレクションをその「所有者」に委託するかたちをとることが妥当だと考える。
前回の総合調査時から40年余りがたち、歴史遺産にかかる学術の進展は著しいものがある。考古遺物「コレクション」もまたそこに資することが期待できる一発掘により取得される考古遺物に比べると様々なデータが欠落しているくらいはあるとしても）に関しても、AIの活用、3Dスキャン技術、化学分析の活用といった40年前には不可能であった手法で見直せば、資料の蓄積の豊富な中世をはじめとし、過去の鎌倉の都市活動のより明確な描写に資するはずである。今回の取り組みとなる「歴史遺産カルテ」がその基礎データとなること、そこに市民や関係者のコレクションが加わることが望ましいと考える次第である。
またここで取り上げたような個人コレクションの活用は、施策③「フィールドミュージアム」のひとつの在り方ともなりうる。フィールドミュージアムに向けた取り組みはかつての「（こども）史跡パトロール隊」を彷彿とさせる。前回の総合調査当時と比べると、投入しうる資源や関わる人の観点では制約も少なくないと思えるが、パト隊に以前在籍したものとして、このような取り組みが再度試みられようとしていることを「関係者」として応援したい。

ご意見ありがとうございます。
地域の歴史や文化を知る上で、市民の方々が保管されている資料も重要な情報となる場合があると考えています。
一方で、考古資料については出土状況の確認が重要であり、調査・研究の対象とする際には専門的な確認や整理が必要となります。個人で採集された資料の取扱いについては、学術的な観点も踏まえながら、今後の参考とさせていただきます。